

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-62372

(P2000-62372A)

(43)公開日 平成12年2月29日(2000.2.29)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
B 4 2 F 1/02		B 4 2 F 1/02	K 2 C 0 1 7
H 0 1 F 7/02		H 0 1 F 7/02	F

審査請求 有 請求項の数4 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平10-241048

(22)出願日 平成10年8月12日(1998.8.12)

(71)出願人 000137339

株式会社マグエックス

東京都中央区東日本橋1丁目9番13号

(72)発明者 中村 千鶴

東京都中央区東日本橋1-9-13 株式会

社マグエックス内

(74)代理人 100071320

弁理士 田辺 敏郎

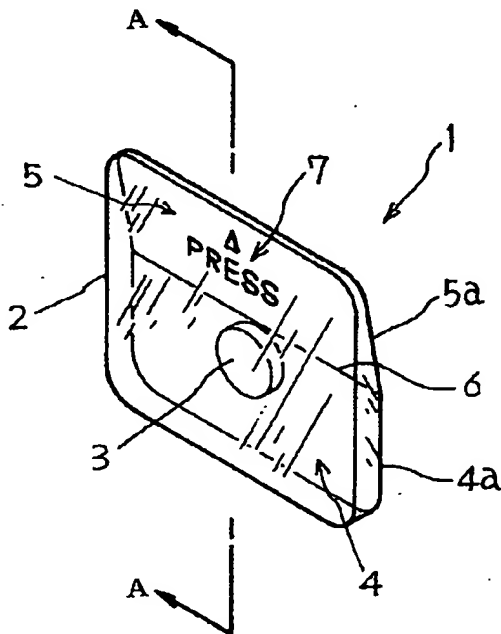
Fターム(参考) 2C017 BA16 DA02 DA03 EA03 FA04

(54)【発明の名称】 揭示具

(57)【要約】

【課題】 揭示物の表示内容を遮ることなく保持することができるとともに、揭示物を容易に着脱することができる揭示具を提供する。

【解決手段】 透明な合成樹脂製板体2の一方部分を、その裏面に板体に比較して極めて小径な磁石体3を配設し磁性体面との間で揭示物を保持する揭示物保持部とする。この揭示物保持部に隣接する板体の他方部分を、先端に行くに従い徐々に肉薄となるテーパ面5aを備えた押動部とする。揭示物を磁着保持する際、あるいは磁着されてなる揭示物を取り外す際には、磁性体面との間に間隙を設けて位置してなる押動部を磁性体面方向に押動し、磁性体面に当接させることにより、自在に揭示物保持部と磁性体面の間に間隙を生じさせるべく、揭示物保持部を磁性体面に対し接離自在とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 透明若しくは半透明の合成樹脂製板体の一方部分裏面には該板体に比較して極めて小径な磁石体を配設し磁性体面との間で掲示物を保持する掲示物保持部とするとともに、この掲示物保持部に隣接する板体の他方部分は先端に行くに従い徐々に肉薄となるテーパ面を備えた押動部とし、掲示物を磁着保持する際あるいは磁着されてなる掲示物を取り外す際には、磁性体面との間に間隙を設けて位置してなる前記押動部を磁性体面方向に押動し、磁性体面に当接させることにより、自在に前記掲示物保持部と磁性体面の間に間隙を生ぜしめるべく、前記掲示物保持部を磁性体面に対し接離自在としたことを特徴とする掲示具。

【請求項2】 磁石体はサマリウムコバルト磁石、ネオジウム・鉄・ボロン磁石、サマリウム・鉄・窒素磁石などの希土類元素を含むことを特徴とする請求項1記載の掲示具。

【請求項3】 磁石体は掲示物保持部における押動部との境界に近づけて配設したことを特徴とする請求項1記載の掲示具。

【請求項4】 押動部にはシート体の着脱に際し押動する部位を表す表示体を形成したことを特徴とする請求項1記載の掲示具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、メモ、紙片、写真などのシート状の掲示物を磁性体壁面に掲示するための磁石を用いた掲示具に係り、特に掲示物の表示内容を遮ることなく保持することができるとともに、掲示物を容易に着脱することができる掲示具に関する。

【0002】

【従来の技術】磁性体壁面に紙片などを掲示するものとしては、従来から磁石を用いた掲示具が数多く存在しており、その中にはボタン状の磁石や、長径な合成樹脂製の杆体の一方面に帯状の磁石を配設したマグネットバーなどが多く用いられている。この掲示具の磁石としては、良好な加工性と廉価である等により主にフェライト磁石粉末を用いたボンド磁石が多く用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これらの掲示具は、大径なポスターや周囲に空白域を設けた掲示物は四隅に掲示具を配設することで支障なく磁着固定するが、小径な掲示物や写真などの周囲に空白域があまり存在しない掲示物にあっては、たとえ掲示物の上端だけに掲示具を配設した場合であっても、掲示物の表示内容が掲示具に遮られ視認性が損なわれていた。

【0004】また、小径なボタン状の磁石にあっては、磁着力があまり大きくないことから磁性体壁面に対して着脱が容易であるが、長径なマグネットバーにあっては磁着力も強く、これで大径な掲示物を磁着するために

は、一方の手で掲示物を把持して磁性体壁面に押さえつつ、他方の手に把持したマグネットバーを押し当てるという手順が必要で、掲示物の位置や傾きを微調整するたびにマグネットバーを着脱する手間を余儀なくされていた。

【0005】そこで、本発明にあっては、掲示物の表示内容を遮ることなく保持することができるとともに、掲示物を容易に着脱することができる掲示具を提供することを目的とする。

10 【0006】

【課題を解決するための手段】前述の目的を達成するため、本発明の掲示具は、透明若しくは半透明の合成樹脂製板体の一方部分裏面には該板体に比較して極めて小径な磁石体を配設し磁性体面との間で掲示物を保持する掲示物保持部とするとともに、この掲示物保持部に隣接する板体の他方部分は先端に行くに従い徐々に肉薄となるテーパ面を備えた押動部とし、掲示物を磁着保持する際あるいは磁着されてなる掲示物を取り外す際には、磁性体面との間に間隙を設けて位置してなる前記押動部を磁性体面方向に押動し、磁性体面に当接させることにより、自在に前記掲示物保持部と磁性体面の間に間隙を生ぜしめるべく、前記掲示物保持部を磁性体面に対し接離自在としたことを特徴とするものである。

20 【0007】また、磁石体はサマリウムコバルト磁石、ネオジウム・鉄・ボロン磁石、サマリウム・鉄・窒素磁石などの希土類元素を含むことを特徴とするものである。

【0008】磁石体は掲示物保持部における押動部との境界に近づけて配設したことを特徴とするものである。

30 【0009】また、押動部にはシート体の着脱に際し押動する部位を表す表示体を形成したことを特徴とするものである。

【0010】

【発明の実施の形態】図1及び図2は本発明の掲示具1を示し、本実施例にあっては一例として四角形状の板体2を、アクリル樹脂、ポリカーボネート、PET樹脂などの透明な合成樹脂材により形成している。そしてこの板体2は、小径なボタン状の磁石体3を裏の磁着面4aに埋設した掲示物保持部4と、先端に行くに従い徐々に肉薄となるテーパ面5aを裏面に備えた押動部5とから構成されている。

【0011】掲示物保持部4の磁着面4aと押動部5のテーパ面5aとは、板体2の裏面略中央を横断する直線的な境界6を介して接しており、そして磁石体3はこの境界6にほぼ接する状態で掲示物保持部4裏面に埋設されている。

【0012】前記磁石体3は、サマリウムコバルト磁石、ネオジウム・鉄・ボロン磁石、サマリウム・鉄・窒素磁石などの希土類元素を含む保持力と最大エネルギー積((BH)max)の優れたものを用い、さらにこれ

ら希土類元素だけで構成するのみならず、希土類元素を含む磁石粉にフェライト磁石粉などを適宜に混入することとしてもよい。これら希土類元素を含む磁着力の強い磁石体にあつては、従来の揭示具におけるフェライト磁石と同程度の磁着力に設定した場合には、その外形寸法をフェライト磁石よりもかなり小径なものとすることができることから、透明な板体2内に占める非透明な磁石体3の面積を極めて小径にすることができる。

【0013】また磁石体3としては、磁石粉末を無機質とのなじみのよい熱可塑性の合成樹脂と混合して加熱軟化し、これを射出成形、押出し成形、カレンダー成形などにより成形する所謂ボンド磁石が成形性等を考慮すると好適である。勿論これ以外のプレス成形などで成形したものでよいものである。そして、磁石体3の形状としては、上述したボタン形状に限られることなく、揭示具1のデザインも考慮して矩形、長方形、楕円形など適宜な形状とするものである。

【0014】押動部5には、押動付勢する部位であることを表す「PRESS」、「PUSH」、「△」などの表示体7を、彫り込み、細い字体、半透明な文字などの適宜な手段を用いて視認性に優れかつ板体2の透明性を損なわないようにして形成している。

【0015】このような構成からなる揭示具1の使用方法としては、図3に示すごとく、磁性体壁面8に磁着面4aを当接させることで磁石体3を磁性体壁面8に磁着させる。つぎに、押動部5を手指で押してテーパー面5aを磁性体壁面8に押し当てる。これにより、磁性体壁面8と磁着面4aとの間に楔型の適宜な間隙9が生じることから、ここに下から紙片10を差し込み手指を押動部5から離すと、磁石体3は磁性体壁面8に磁着し、紙片10は磁性体壁面8と磁着面4aとの間に保持・固定される。また、保持・固定された紙片10を取り外す場合も同様に、揭示具1の押動部5を手指で押すだけで紙片10は揭示具1から離脱するものである。また、押動部5のテーパー面5a、及び押動部5を押動付勢することで持ち上がる揭示物保持部4の下端は好適な指掛かりとなることから、磁性体壁面8から揭示具1を剥離し易いものである。

【0016】図4～図8は、本発明の揭示具における他の実施例であり、構成、機能、使用方法については上述した実施例と同様で、いずれも透明な板体に希土類元素を含む磁石体を配設しているものの、各種使用形態を考慮して板体を様々な形状としたものである。図4の揭示具11は、二等辺三角形形状の板体12の下半分を揭示物保持部13、上半分を押動部14とし、磁石体15は揭示物保持部13の裏面に配設されている。図5の揭示具16は、逆二等辺三角形形状の板体17の下半分を揭示物保持部18、上半分を押動部19とし、磁石体20は揭示物保持部18の裏面に配設されている。

【0017】図6は、円形状の板体22からなる揭示具

21を示しており、板体22の下半分を揭示物保持部23、上半分を押動部24とするとともに、揭示物保持部23裏面の中央に磁石体25を配設している。また図7は、長楕円形状の板体27からなる揭示具26を示しており、板体27の下半分を揭示物保持部28、上半分を押動部29とするとともに、揭示物保持部28裏面の中央に磁石体30を配設している。図8は、図7の揭示具21よりもさらに長径な長楕円形状の板体32からなる揭示具31を示しており、板体32の下半分を揭示物保持部33、上半分を押動部34とするとともに、揭示物保持部33裏面の左右2個所に磁石体35を配設している。上述した図4～図8の揭示具にあつては、それぞれ押動部に一例として「PRESS」の表示体36を形成している。

【0018】尚、特に図示しないが、上述した各実施例の揭示具を構成する合成樹脂材は透明であればよいことから、その材料としては無色のみならず有色であってもよいものである。

【0019】

【発明の効果】以上詳述の如く、本発明の揭示具によれば、透明若しくは半透明の合成樹脂製板体の一方部分裏面には該板体に比較して極めて小径な磁石体を配設し磁性体面との間で揭示物を保持する揭示物保持部とするとともに、この揭示物保持部に隣接する板体の他方部分は先端に行くに従い徐々に肉薄となるテーパー面を備えた押動部とし、揭示物を磁着保持する際あるいは磁着されてなる揭示物を取り外す際には、磁性体面との間に間隙を設けて位置してなる前記押動部を磁性体面方向に押動し、磁性体面に当接させることにより、自在に前記揭示物保持部と磁性体面の間に間隙を生ぜしめるべく、前記揭示物保持部を磁性体面に対し接離自在としたことで、揭示物の表示内容は透明若しくは半透明な合成樹脂製板体により遮られることなく確実に視認されるときともに、揭示物の着脱に際し押動部を押動付勢するだけで揭示具の揭示物保持部と磁性体面との間に適宜な間隙が生じ、これにより揭示物を容易に着脱することができるものである。

【0020】また、磁石体はサマリウムコバルト磁石、ネオジウム・鉄・ボロン磁石、サマリウム・鉄・窒素磁石などの希土類元素を含むことで、磁石体を従来の揭示具におけるフェライト磁石と同程度の磁着力に設定した場合には、その外形寸法をフェライト磁石よりも極めて小径なものとすることができることから、揭示具に占める非透明な磁石体の面積をきわめて小さくして揭示物の表示内容の視認性を向上させることができる。

【0021】また、磁石体は揭示物保持部における押動部との境界に近づけて配設することで、押動部を磁性体面方向に押動して磁性体面に当接させた状態でも、磁石体は磁性体面を磁着して揭示具が落下することなく固定され、揭示物の着脱がより一層行い易くなる。

【0022】また、押動部にシート体の着脱に際し押動する部位を表す表示体を形成することで、掲示具の使用方法をだれでもが容易に理解し得るとともに、磁性体壁面に磁着させる掲示具の向きを間違えるおそれもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の掲示具の斜視図である。

【図2】図1のA-A線断面図である。

【図3】本発明の掲示具の使用状態を示す断面図である。

【図4】本発明の掲示具の他の実施例を示す平面図である。

【図5】本発明の掲示具の他の実施例を示す平面図である。

【図6】本発明の掲示具の他の実施例を示す平面図である。

【図7】本発明の掲示具の他の実施例を示す平面図である。

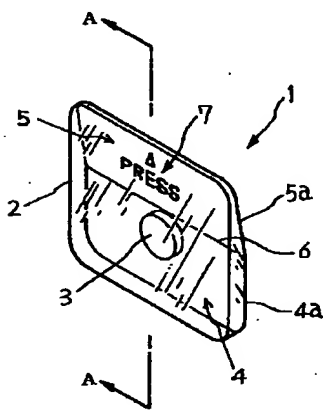
る。

【図8】本発明の掲示具の他の実施例を示す平面図である。

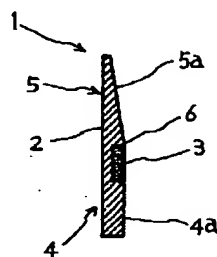
【符号の説明】

- 1 掲示具
- 2 板体
- 3 磁石体
- 4 掲示物保持部
- 4a 磁着面
- 5 押動部
- 5a テーパー面
- 6 境界
- 7 表示体
- 8 磁性体壁面
- 9 間隙
- 10 紙片

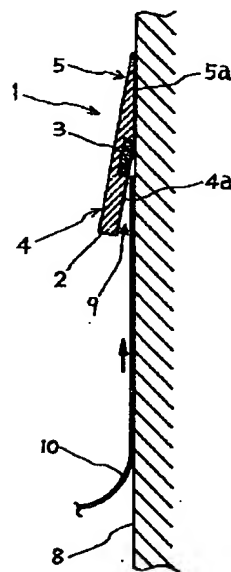
【図1】



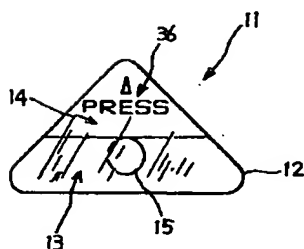
【図2】



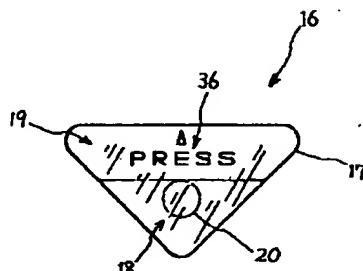
【図3】



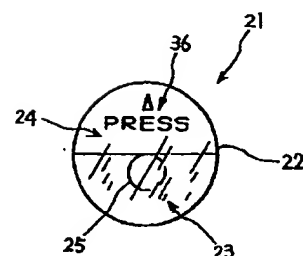
【図4】



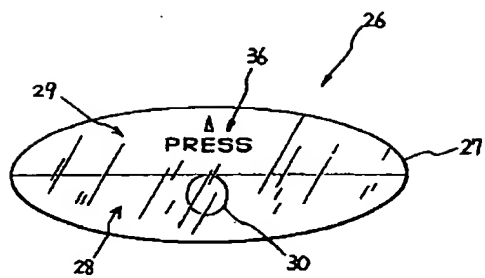
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

